「福岡県稲童古墳群出土品」国重要文化財指定記念シンポジウム

稲童古墳群出土品から見えた、古代のゆくはし

発掘された代表的な出土品

日時
平成二十七年八月一日（土）
十三時～十七時

場所
コスメイト行橋 文化ホール

2015
行橋市・行橋市教育委員会

ごあいさつ

平成 27 年 3 月 13 日、国の文化審議会は稲童古墳群の出土品 197 点を、国の重要文化財に指定することを文部科学大臣に答申しました。

稲童古墳群は福岡県行橋市稲童の海岸沿いに所在する、古墳時代前期から後期にかけて築かれた約 30 基の古墳群です。今回、国重要文化財の指定を受けたのは、稲童古墳群出土品のうちまとまった資料が出土した 8・15・21 号墳における出土品の一括で、古墳時代前期及び中期の甲冑をはじめ、刀剣、馬具等の金属製品を豊富に含むことを特徴とします。

今回のシンポジウムは指定を記念して、稲童古墳群やその出土品の意義を、考古学研究の専門家に語っていただきます。またシンポジウムに先がけ、古墳にコーフン協会会長、古墳シンガーである まりこふん さんによるトークショー、ライブも行います。

このシンポジウムによって、郷土の歴史についての知識と関心がこれまで以上に深まることを願うものです。

平成 27 年 8 月 1 日

行橋市・行橋市教育委員会

シンポジウムプログラム

13:00	開 会	
13:10	オープニングアトラクション　まりこふん さんによる古墳の歌＆トークショー	
14:00	休 憩	
14:10	記念講演 1「稲童古墳群を掘る」	山中 英彦
	記念講演 2「重要文化財としての稲童古墳群出土品」	豊島 直博
	記念講演 3「稲童古墳群からみた古墳時代の豊前の重要性」	橋本 達也
15:40	休 憩	
15:50	シンポジウム【コーディネーター：桃崎 祐輔】【パネリスト：山中 英彦・豊島 直博・橋本 達也】	
17:00	閉 会	

講師紹介

山 中 英 彦〈行橋市歴史資料館長〉

1941 年行橋市沓尾生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。福岡県立小倉高等学校教頭、京都高等学校長などを経て、現職。行橋市文化財調査委員。専門は日本考古学で、特に漁撈具の研究の第一人者。稲童古墳群の発掘調査には学生時代から関っている。主な著作に「藍島・六連島の海人文化－仲哀紀の世界を探る－」『海と列島文化第 2 巻』小学館、「考古学から見た海人族の東遷」『西海と南島の生活・文化（古代王権と交流）』名著出版など。

豊 島 直 博〈奈良大学文学部准教授〉

1973 年埼玉県生まれ。大阪大学大学院文学研究科修士課程修了。奈良文化財研究所主任研究員、文化庁美術学芸課文化財調査官を経て、現職。文学博士。専門は日本考古学で、主に弥生時代から古墳時代の鉄製武器を研究。主な著書は『鉄製武器の流通と初期国家形成』塙書房。

橋 本 達 也〈鹿児島大学総合研究博物館准教授〉

1969 年大阪府生まれ。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。徳島大学助手を経て、現職。甲冑を中心とする古墳時代の武器・武具および古墳時代の地域社会と広域交流を研究。古墳時代に関する論文多数。

コーディネーター

桃 﨑 祐 輔〈福岡大学人文学部教授〉

1967 年福岡市生まれ。筑波大学大学院歴史・人類学研究科単位取得退学。日本学術振興会特別研究員、筑波大学助手などを経て、現職。稲童古墳群報告書では馬具を担当。ユーラシア騎馬文化・屯倉・金属製品・中近世仏教考古学・陶磁器等が専門で「中世とは何か」の解明をめざす。近年の主な著作に「牧の考古学－古墳時代牧と牛馬飼育集団の集落・墓」『日韓集落の研究－弥生・古墳時代および無文土器～三国時代－』日韓集落研究会、「交通と伝達　乗馬」『古墳時代の考古学　第 5 巻　時代を支えた生産と技術』同成社など多数。

国重要文化財「福岡県稲童古墳群出土品」

一、短甲	１領
一、鉄製品	２点
一、硬玉勾玉	１点
	（以上１５号墳出土）
一、金銅立飾付眉庇付冑	１頭
一、鉄甲冑	６点
一、金属製品	９５点
一、石製品	３０点
附 須恵器残欠	３点
	（以上２１号墳出土）
一、鉄甲冑	３点
一、金属製品	２１点
附 一、鉄製品残欠	１７点
一、土器・土製品残欠	１７点
	（以上８号墳出土）

説　明

福岡県稲童古墳群から出土した古墳時代前期末から中期後半における古墳出土品です。

稲童古墳群は福岡県行橋市稲童に所在し、瀬戸内海西端の周防灘に面した、標高５～10m程の砂丘上に立地します。この砂丘上には、古墳時代前期から後期にかけて築かれた約30基の古墳があり、稲童古墳群として広く知られています。

稲童古墳群の存在は、昭和 14 年（1939）、島田寅次郎氏が古墳群中最大の石並古墳（20 号墳）の簡易な測量図を紹介したことがきっかけとなり世に知られるようになりました。昭和 34 年（1959）に小田富士雄氏が砂取り工事で破壊された 15 号墳の発掘調査を行った後、昭和 39 ～ 40 年（1964 ～ 1965）にかけて、大川清氏を調査担当者とする蔵内古文化研究所が主体となり、計３次の調査が行われました。この際には８号墳や 21 号墳の調査が行われ、古墳時代中期の豊富な副葬品が出土しました。その後平成 13 年（2001）、大川清氏が主宰する日本窯業史研究所より出土品一括が行橋市に寄贈され、平成 17 年（2005）に一連の調査成果をまとめた発掘調査報告書が刊行されました。

本件は、これら稲童古墳群出土品のうちまとまった資料が出土した 8・15・21 号墳の出土品の一括であり、古墳時代前期及び中期の甲冑をはじめ、刀剣、馬具等の金属製品を豊富に含むことを特徴とします。

15 号墳は、箱式石棺を主体部とする径 6m の円墳で、方形板革綴短甲、剣、鉇、勾玉があり、これらの出土品は古墳時代前期末葉に位置づけられます。21 号墳は、竪穴系横口式石室を主体部とする径 22mの円墳で、金銅立飾付眉庇付冑をはじめとし、三角板鋲留短甲とその付属具、横矧板鋲留短甲、各種の鉄製武器や馬具、銅鏡、玉類等があります。なかでも金銅立飾付眉庇付冑は国内外でも例がなく、金銅立飾はその優美さに加え、形状の系譜を朝鮮半島に求めることのできる点でも貴重です。8 号墳は、竪穴系横口式石室を主体部とする径 19mの円墳で、横矧板衝角付冑と付属具を伴う横矧板鋲留短甲、各種の鉄製武器や馬具等があります。21 号墳及び 8 号墳の出土品は古墳時代中期中頃～後半に位置づけられます。

稲童古墳群出土品は、九州の周防灘沿岸における古墳時代前・中期古墳の副葬品のまとまった資料として貴重であり、なかでも武器・武具・馬具類は、その形態的、技術的変遷を同一古墳群内でたどることができる稀有な資料です。またこれらの出土品は、中小古墳に葬られた被葬者の軍事的な性格を表すとともに、朝鮮半島情勢を背景とした中央政権と周防灘沿岸の地域勢力との政治的、軍事的関係を考究するうえでも学術的価値が高いものです。

Photo by Shigeru Ushijima

発掘された代表的な出土品［国重要文化財］

Photo by Kikuo Oka

稲童 21号墳出土 金銅立飾付眉庇付冑［国重要文化財］

特別寄稿

稲童古墳群に大コーフン

― 稲童古墳群出土品の国重要文化財指定を記念して ―

古墳シンガー・古墳にコーフン協会会長　まりこふん

この度、「福岡県稲童古墳群出土品」国重要文化財指定記念シンポジウム「稲童古墳群出土品から見た、古代のゆくはし」に参加させていただくことに、心がワクワクしています。

行橋のある京都平野には、稲童古墳群をはじめとして、苅田町の石塚山古墳、御所山古墳、みやこ町の橘塚古墳、綾塚古墳など日本有数の古墳がある地域で、私もかつて古墳めぐりで訪れたことがあります。行橋市内にもビワノクマ古墳、八雷古墳、隼人塚古墳、願光寺裏山古墳など多くの古墳が残っており、大変好奇心をくすぐられる興味深い土地です。

私はもともと古墳に興味を持っていたのですが、その思いを熱くしたのは教科書に載っていた大阪の堺市にある大仙古墳（仁徳天皇陵）を訪れた際、あまりにも古墳が大きすぎてその形を実感できなかったことがきっかけです。このことで古墳の形を感じたい、もっともっと古墳のことを知りたいと思うようになりました。そしてとうとう、2013年に「古墳にコーフン協会」設立し、自らが会長となり、今現在は全国各地の古墳をめぐったり、古墳祭に参加したりと、活動の輪を少しずつ広げていきつつあります。

私のモットーは「学術的でとっつきにくい古墳を誰にでも親しみやすくカジュアルなイメージに変え、多くの人々に古墳めぐりの楽しさを知ってもらうこと」です。私も最初は「カワイイ」ということが入り口で何の知識も無かったのですが、実際に古墳めぐりを通じて古代の息吹を感じ、関連する博物館や展示図録を見ていくうちに、古墳に関する知識が自然に増えて、私独自の目線で執筆した古墳のガイド本も刊行することができました。

稲童古墳群は25基の古墳群。なかでもお気に入りは帆立貝の形をしたお饅頭のような石並古墳（20号墳）です。そのすぐ傍にある21号墳から発見された眉庇付冑は、キラキラした立飾がついた世界に1つだけの冑。この度、それを含めた稲童古墳群の出土品が国の重要文化財に指定されたことを大変うれしく思っています。このことは私も含めて地域の皆さんがもっと誇りをもち、将来にわたって子どもたちに伝えていかなければいけない、とっても大切な宝物だと思います。

今日1日、稲童古墳群とその出土品に思いを馳せながら、とってもコーフンできる時間を過ごせそうです。

まりこふん

古墳シンガーにして、古墳にコーフン協会会長。「かわいい」という独自の目線で古墳や古墳巡りの楽しさを多くの人に伝えるべく活動中。ラジオやテレビ、全国のお祭りに出演するなど、様々なメディアで活躍。また、女の情念を力強くかつ繊細に歌い上げるBlack&Blueのライブも精力的に行っており、1st アルバム「人間なんて」、さらに世界初の古墳アルバム「古墳 de コーフン！」が好評発売中。主な著書は『まりこふんの古墳ブック』山と渓谷社、『古墳の歩き方』扶桑社、ヨザワマイとの共著『東京古墳散歩』徳間書店。

古墳にコーフン協会HP　http://kofun.jp/

▲CD, 著書の一覧

記念講演１

稲童古墳群を掘る

行橋市歴史資料館　山中　英彦

１．稲童古墳群の分布と調査　（図１）

瀬戸内海の西端部にあり、沿岸部の緩やかな弧状を描く海岸砂丘と低平な標高 4 〜 5m の海岸段丘が発達している。弥生時代の墳墓群をはじめ、25 基からなる稲童古墳群がある。

昭和 51 年（1976）に発行された『福岡県遺跡等分布地図（行橋市・京都郡編）』（福岡県教育委員会）では、「稲童塚原古墳群（遺跡番号 140323）」の名称で登録されていた。

本古墳群の主墳は、戦前には「稲童古墳」と呼ばれていた帆立貝式前方後円墳の石並古墳（稲童 20 号墳）で、昭和 40 年（1965）の分布調査では、合計 25 基の古墳の存在が確認されている。

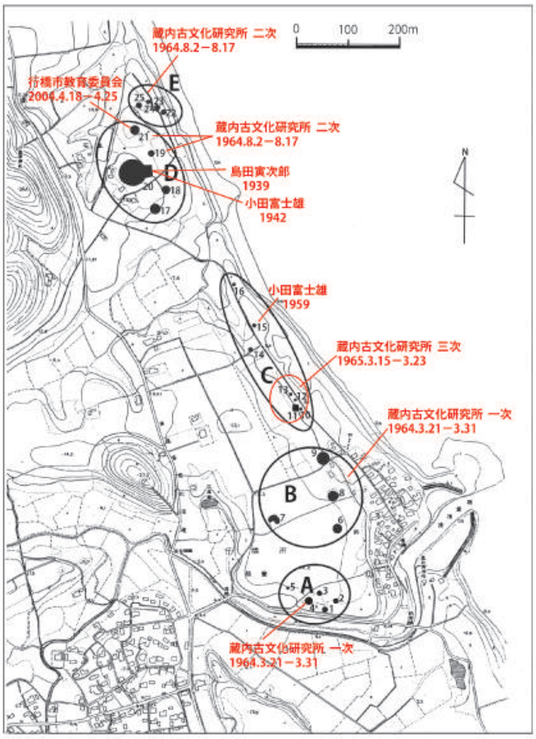

図１　稲童古墳群の分布と調査

２．石並古墳（稲童 20 号墳）の測量調査　（図２）（図３）

（1）島田寅次郎氏・仲津小学校の石並古墳測量調査　昭和 14 年（1939）

『福岡県史蹟名勝天然記念物調査報告書　第十三輯　史蹟之部』に「稲童古墳」の名でその実測図が収録されている。「仲津小学校調査ニヨリ本図ヲ製ス」の注がある。二段築成の様相や、現在はその一部しか確認できないが古墳をめぐる二重周濠が示されている。

図２　稲童古墳の実測図

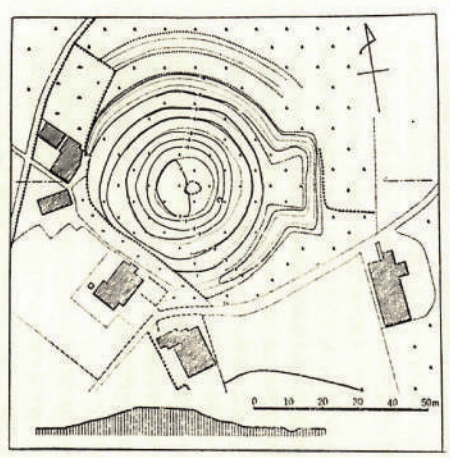

図３　石並古墳の実測図　（1967年）

（2）小田富士雄氏の石並古墳測量調査　昭和 42 年（1967）

測量調査を昭和 42 年（1967）に小田富士雄氏が実施し、同年「行橋市石並前方後円墳」の題で『美夜古文化 第 18 号』に公表されている。

復元軸長は 68m、後円部径 58m、前方部先端幅 20m で、後円部は二段築成で頂上は截頭形を呈し、径 17m の平坦地となっている。

3．稲童古墳群の発掘調査

図4　稲童 15 号墳の遠望

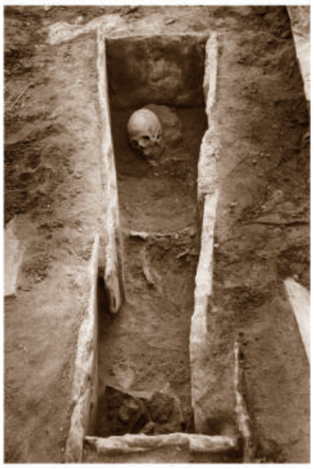

図5　稲童 15 号墳の箱式石棺

(1) 小田富士雄氏の「下井無田古墳」(稲童 15 号墳) の調査　(図 4) (図 5)

昭和 30 年代、稲童から長井の海岸部で砂取り工事が始まり、数多くの重要な遺跡が破壊された。緊急調査として、昭和 34 年(1959)の夏に小田富士雄氏が弥生時代中期から後期にかけての箱式石棺 13 基、合口甕棺 4 基と円墳の 15 号墳の調査を行っている。当時は小字名を取って「下井無田古墳」と呼ばれていた。

箱式石棺を内部主体とする前期末の古墳で、棺内から方形板革綴短甲が発見されている。

(2)「蔵内古文化研究所」の発掘調査　(図 6 ～ 8)

地元選出の国会議員であった蔵内修治氏の協力で、氏を所長とする「蔵内古文化研究所」を設立し、出光興産、西日本鉄道、九州電力等地元企業からの資金援助を受けて、発掘調査を実現したものである。調査隊は、大川清氏（当時、東邦音楽大学助教授・早稲田大学講師）を調査担当とし、早稲田大学考古学研究会員が参加した。

昭和 39 年から 40 年にかけて三次にわたって発掘調査を実施した。

図6　稲童 8 号墳の石室

①第一次調査　　昭和 39 年（1964）3 月 21 日～ 3 月 31 日の期間で、古墳群の南端部の A・B 群の一部を調査した。A 群では横穴式石室の一部が露呈している 4 号墳を、B 群では径 20m、高さ 3.5m 程度の円墳の 8 号墳を選び、この 2 基について実施した。

大半の天井石を失しているものの 8 号墳では、特色ある竪穴系横口式石室とともに、その前庭部から甲冑類などの豊富な副葬品が発見された。

図 7　稲童 8号墳の甲冑類の出土状況

②第二次調査　　昭和 39 年（1964）8 月 2 日～ 8 月 17 日の期間で、古墳群の北端部の D・E 群の調査を実施した。

D群では、石並古墳の周りにある 19 号、21 号の２基の墳頂部の平らな古墳を、E群では松林の中にある 22 号、23 号、24 号の３基の小円墳を選んで実施した。D群の２基はともに５世紀代の中期古墳で、特に 21 号墳では完存した竪穴系横口式石室が検出された。石室内への土砂の流入もほとんどなく、甲冑類をはじめ数多くの副葬品が石室内でその原位置を保って発見された。

E群の小円墳の横穴式石室は、すべて単室の横穴式石室で、A群の複室横穴式石室のグループよりも古段階のものである。

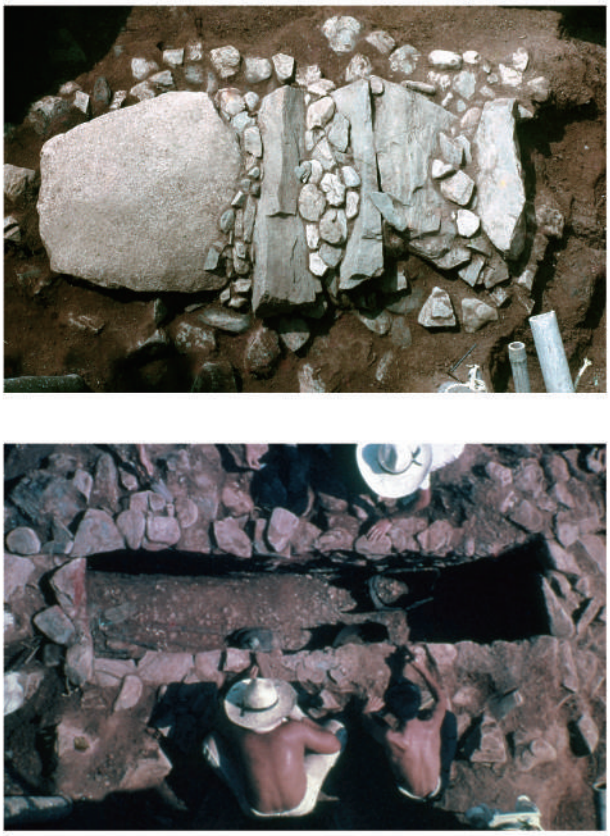
図８　稲童 21 号墳の発掘

③第三次調査　昭和 40 年（1965）３月 15 日～３月 23 日の期間で、C群の 11 ～ 13 号墳を調査した。C群は、本古墳群の成立期の墓域で、箱式石棺や石蓋土壙を内部主体とする前期古墳が集まっており、複数の内部主体をもつものが多い。４世紀～５世紀前半のもので、11 号墳のように複数の内部主体を持つ段階から、15 号墳のように単一の箱式石棺を主体とする古墳へと変化する在地型古墳のグループである。

蔵内古文化研究所による第一次から第三次の発掘調査で、A～Eの５群に分けた稲童古墳群の各群を網羅する形で調査することができた。その結果、本古墳群は４世紀～６世紀にかけて連綿と造墓された、同一首長系譜の累積的な古墳群の姿をつかむことができた。

(3)　行橋市教育委員会の 21 号墳補足調査

竪穴系横口式石室の典型例である 21 号墳について、石室墓壙と墓道の検討・確認のために補足調査をした。

平成 16 年（2004）４月 18 日から 25 日まで、福岡大学のご協力を得ながら、山中英彦を調査担当として補足調査を実施した。

墓壙幅は約４ｍもあり、石室の規模の割には広いものであった。

単一葬であることも確認された。

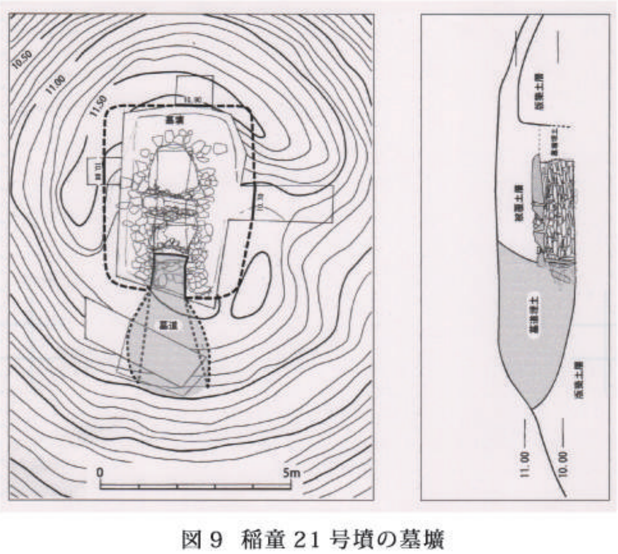

図９　稲童 21 号墳の墓壙

記念講演2

重要文化財としての稲童古墳群出土品

奈良大学文学部　豊島　直博

1．重要文化財とは

・文化財保護法二十七条によって定められる。現在 10,612 件（うち国宝 874 件）。
・国指定重要文化財の種類
　絵画、彫刻、工芸品、書跡・典籍、古文書、考古資料、歴史資料、建造物。
・福岡県の重要文化財（199 件、うち国宝 12 件）→九州で最多。
・行橋市の重要文化財　御所ヶ谷神籠石（国指定史跡）、稲童古墳群出土品。

2．指定に至る経過

・毎年 1 回、地方ごとに重要考古資料選定会議が開かれる。
　福岡県では、宗像市田熊石畑遺跡出土品（弥生時代）、石人（八女市、古墳時代）、行橋市稲童古墳群などが選定されていた。
・重要考古資料から、時代、地域のバランス等を考慮し、指定候補を絞る。
・整理指導（指定候補の員数確定、リスト作成など。）
・有識者による文化審議会専門調査会（年 1 回）→答申→指定。
・平成 27 年 3 月の答申
　国宝 2 件は彫刻（奈良・京都）。昨年は考古資料（長野県茅野市の土偶）。
　考古資料の重文は 6 件
　①北海道松法川北岸遺跡出土品（オホーツク文化の一括品）、②新潟県元屋敷遺跡出土品（縄文時代の一括品）、③土偶（長野県諏訪市坂上遺跡出土）、④大阪府野中古墳出土品（古墳の一括品）、⑤徳島県観音寺・敷地遺跡出土品（飛鳥～奈良時代の役所跡出土品）、⑥福岡県稲童古墳群出土品（古墳群の出土品）。

3．指定後の保存と活用

・移動、修理には事前の届け出が必要。
・貸し出しによる公開の制限（公開は年間 60 日以内、移動は 2 回まで。）
・補助事業による修理が可能（防錆の保存修理、保存台座の作成など。）
・ゆるキャラ、グッズなど、自治体の広告塔として活用される場合がある。

4．稲童古墳群出土品の意義

・単品指定から一括指定へ。
・「古墳群」出土品の指定としては初めての事例。（宮崎県島内地下式横穴墓群出土品は、墳墓群の指定として初の事例。）
・甲冑が集中的に出土する地域として、古墳時代の政治的・軍事的様相を知るうえで重要な資料。金銅製飾金具を装着した冑は、古墳時代の金属工芸を知るうえで重要。

○参照条文：文化財保護法（抄）

（指定）

第二十七条　文部科学大臣は、有形文化財のうち重要なものを重要文化財に指定することができる。

2　文部科学大臣は、重要文化財のうち世界文化の見地から価値の高いもので、たぐいない国民の宝たるものを国宝に指定することができる。

○国宝・重要文化財（美術工芸品）の指定件数

事項 / 種別	新規指定件数		合計
	国宝	重要文化財	
絵画	0	8	2,002（159）
彫刻	2	7	2,692（130）
工芸品	0	2	2,447（252）
書籍・典籍	0	3	1,903（224）
古文書	0	5	759（ 60）
考古資料	0	6	618（ 46）
歴史資料	0	8	191（ 3）
合計	2	39	10,612（874）

（注）合計欄括弧内の数字は国宝の件数で、内数である。

⑥ 福岡県稲童古墳群出土品(ふくおかけんいなどうこふんぐんしゅつどひん)　一括

【所有者】行橋市(ゆくはしし)（福岡県行橋市中央１－１－１）
行橋市歴史資料館保管

周防灘(すおうなだ)に面した砂丘上に所在する稲童古墳群８号墳・１５号墳・２１号墳から出土した、古墳時代前期及び中期の出土品一括である。中でも、２１号墳から出土した冑(かぶと)は、頭頂部に歩揺(ほよう)金具を付加した金銅立飾(こんどうたちかざり)が取り付けられた優品である。その他、装飾豊かな刀剣類や、各種甲冑が含まれている。

九州における古墳時代前・中期の副葬品の一括として、また、種類豊富な武具類を含む点で貴重である。

（古墳時代）　※文化庁ホームページより引用

③ 土偶（どぐう）　　　　　　一箇

【大きさ】高さ　２３．０ｃｍ
【所有者】富士見町（長野県諏訪郡富士見町落合１０７７７）
　　　　　井戸尻考古館保管

八ヶ岳の山麓に所在する、坂上（さかうえ）遺跡から出土した土偶であり、両腕を広げ、顔面は斜上方を向いた姿勢で直立している。胴体は長く作られ、腹部両脇と腰の部分には細かな線で文様が描かれている。

造形が優れ、保存状態も良好であり、縄文時代中期の土偶として貴重である。

（縄文時代）　※文化庁ホームページより引用

④ 大阪府野中古墳出土品（おおさかふのなかこふんしゅつどひん）　　　　　　一括

【所有者】国立大学法人大阪大学（大阪府吹田市山田丘１－１）
　　　　　大阪大学総合学術博物館保管

古市（ふるいち）古墳群の一つ、墓山古墳（はかやまこふん）に近接した方墳である、野中古墳からの出土品一括である。甲冑（かっちゅう）や刀剣、農工具など極めて多量の鉄製品が出土しており、特に、甲冑は古墳時代の武具研究で常に指標となるものである。

古墳時代の鉄製武具のまとまった資料として、また、この時代特有の鉄器多量埋納の実態を示す資料として貴重である。

（古墳時代）　※文化庁ホームページより引用

修理事業の例（福岡県栗田遺跡出土土器）
上：修理中　右：修理後

記念講演３

稲童古墳群からみた古墳時代の豊前の重要性

鹿児島大学総合研究博物館　橋本　達也

１．稲童古墳群の立地と構成

稲童古墳群は行橋市の砂丘上に立地する現在 25 基を数える古墳群であるが、海に面したその立地が特徴的である。平野を見下ろすような、あるいは集落から見上げるような場所ではなく、海をみる、あるいは海からみることを意識した海を介した交流に関わる人びとの墓群であることを強く印象づけられる。

古墳群内には前方部の短い帆立貝型前方後円墳を 1 基含むが、その他は円墳で構成されており、その帆立貝型前方後円墳の石並古墳も墳丘長は 70m程度の中型墳である。豊前の地域では古墳時代前期前半（3 世紀後葉）から苅田町石塚山古墳のような大型前方後円墳が築造されているが、むしろ稲童古墳群はそのような上位階層の首長を葬った大型古墳とは異なり、中間層的な首長墓群であることを特徴としている。大型古墳群を築く上位首長、そして稲童古墳群のような中下位首長、さらに古墳を築造しない人びとといった階層序列が古墳時代の間の長期間にわたって確認できる地域は珍しい。それだけ、この地域の古墳社会が成熟していたことをうかがわせるものである。

その上、稲童古墳群でとくに注目されるのは甲冑を中心とする豊富な副葬品である。これらはけっして、在地首長としての力量だけで手に入れることのできないものである。古墳時代の広域のネットワークの中で活躍した人びとがいたことを物語っている。

ここでは、稲童古墳群の出土品を中心として、九州のなかでも古墳文化のもっとも先進地であったといって過言ではない行橋・苅田付近の首長たちの動向についてみて行きたい。

２．稲童古墳群を代表する出土品とその時代

(1)　15 号墳とその時代

15 号墳の箱式石棺内から出土した方形板革綴短甲とよぶヨロイは、古墳時代前期後半（4 世紀前葉から後葉）を代表する遺物である。元々は朝鮮半島東南部の甲冑の影響を受けて、おそらくヤマトで生産され、近畿中央政権との連携の証として配布されたものと考えられる。

九州では福岡市西区の若八幡宮古墳、佐賀市の熊本山古墳でも出土しているが、その他では近畿を中心に日本各地の古墳から 21 例、朝鮮半島で 2 例の出土が知られる稀少品である。

なお、豊前では、苅田町石塚山古墳から小札革綴冑、行橋市ビワノクマ古墳から小札革綴甲が出土している。両者ともに古墳時代前期の甲冑で、日本列島の甲冑の製作技術・系譜にはないもので、中国からの舶載品とみられ、これもヤマトを介して配布されたものと考えられる。

小札革綴冑は、日本全体で 14 例の出土しかなく、しかも大型前方後円墳を中心に出土している。石塚山古墳では三角縁神獣鏡を中心とする８面以上の鏡を保有し、また素環頭大刀、鉄鏃・銅鏃、矢を入れる装飾容器である靫（ゆき）も副葬している。近畿中央の有力古墳と比しても遜色なく、全国的にみても古墳時代前期の最上位層首長の保有品とみなされるものが集積されている。

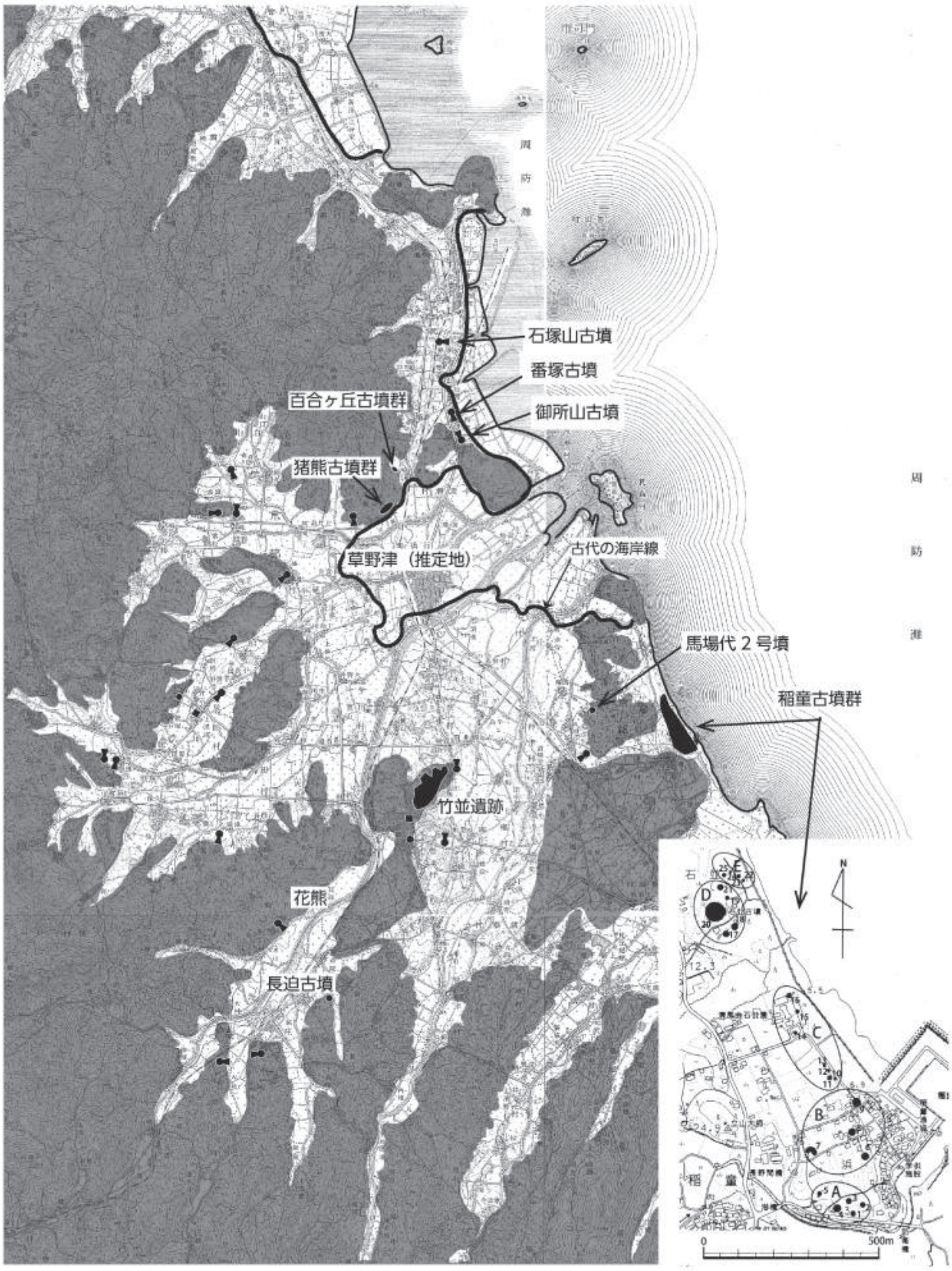

図１　京都平野の主要古墳（甲冑出土古墳）

また、小札革綴甲は、類例が現状では奈良県城山２号墳にしかない超稀少舶載品である。ビワノクマ古墳では素環頭大刀も出土しており、これも中国系舶載品とみなされ、鞍も出土している。武装セットを中心とした有力首長の副葬品である。

すなわち、京都平野では石塚山古墳を頂点として、ビワノクマ古墳、稲童 15 号墳にヤマトと結びつく稀少な鉄製甲冑が副葬されており、軍事に関わる組織、秩序が形成されていたことを物語る。稲童 15 号墳のような小型古墳で、鉄製甲冑を副葬し得たのは他では奈良盆地のみであり、その点からも早くからヤマトと近しい政治関係を結んでいた京都平野の特殊性がうかがえる。

(2)　21 号墳とその時代

21 号墳は、古墳時代中期中葉（5 世紀半ば）の古墳である。墳丘径 22mほどの小規模墳であるが甲冑を中心とする豊富な副葬品が特徴である。

なかでも、ここでもっとも目を引くのは眉庇付冑（まびさしつきかぶと）である。この冑に

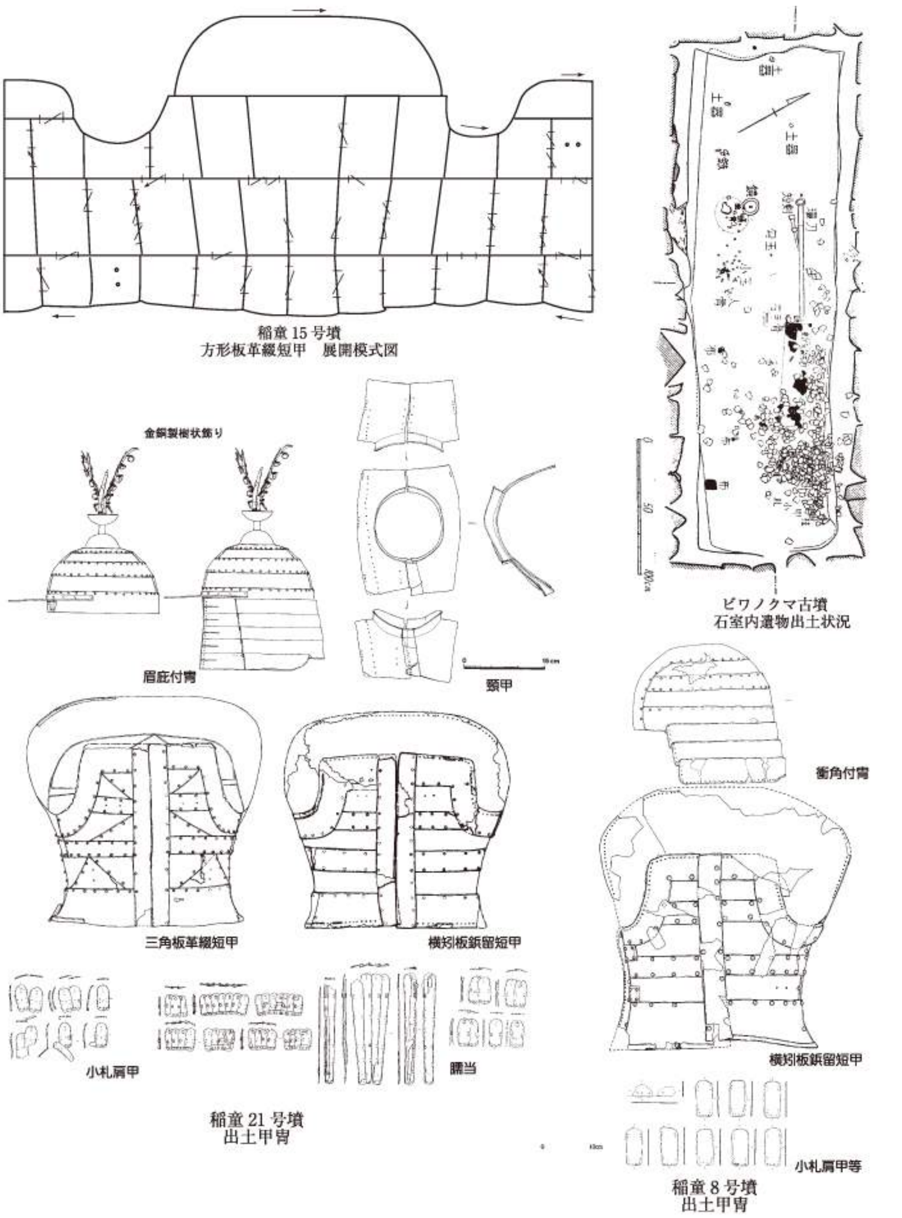

図 2　稲童古墳群の甲冑とビワノクマ古墳石室内遺物出土状況

は額のところに金銅板（金メッキをした銅板）を貼って装飾し、頂部に取り付けた伏鉢・管・受鉢という部分は鉄地金銅製（鉄地に金銅板を貼ったもの）としている。さらに、冑のてっぺんには樹状に切り抜いた金銅板に、揺れると動く歩揺という飾りをつけた装飾が伴っている。この装飾は冠のデザインを冑に取り入れたものとみなされ、要は、この冑は武具としての意味合いをもちつつ、冠のように輝き身を飾るものでもあったのである。

古墳時代中期は、古墳時代前期よりも一層、古墳被葬者の保有品として甲冑の重要性が高まった時代である。その生産は、大阪府古市・百舌鳥古墳群を築造した近畿中央政権のもとで行われ、その配布を通して、政権との政治・軍事関係の結びつきを表したものと考えられる。この時期のもっとも中心的な古墳副葬品であり、その保有数量やセット関係の充実度、装飾性の高さが保有者の地位や職掌などを表しているとみなされる。

このような装飾性の高い金銅装眉庇付冑と呼ぶものは、現在 26 例ほど確認されているが、古墳時代中期中葉頃の近畿中央政権との関係において、より重視された軍事的地位にあった人物の保有品と考えられる。また稲童 21 号墳にみられる、短甲 2 領の出土、臑当の出土も全国的にみて有力な甲冑保有古墳でのみ確認できるものである。さらに小札肩甲は、朝鮮半島系要素の確認できる古墳で特徴的にみられるものである。

同時期ないし近接する時期の京都平野には墳丘長 120mの大型前方後円墳である苅田町御所山古墳が築造されており、九州北部の盟主的存在である。また苅田町百合ヶ丘 16 号墳では、遺存状態が不良であるが、籠手ないし臑当を含む甲冑片が出土している。古墳時代中期中葉にはこの地域で御所山古墳の首長を中心とした政治関係が構築されていたと考えられ、稲童 21 号墳の被葬者もそのなかの中位階層に位置づけられるだろう。ただし、21 号墳の傑出した副葬品は、単にこの地域内での政治的地位からもたらされたものとは考えられず、むしろ近畿中央政権と関わる政治・軍事活動のなかでの評価によって与えられたものであろう。

近い様相の古墳には兵庫県小野王塚古墳、宮崎県下北方 5 号墳などがあり、瀬戸内や豊後水道を介し、それによって結ばれる近畿、あるいは朝鮮半島との交流のなかで、活躍した人物の古墳ではなかろうか。

（3） 8 号墳とその時代

8 号墳は古墳時代中期末（5 世紀後葉）に位置づけられる。墳丘径 19mの小型古墳であるが、甲冑と馬具を中心とする副葬品が出土している。

この古墳の時期は鉄製甲冑がもっとも大量に生産、配布された時期である。京都平野でも 8 号墳以外に、苅田町猪熊 1 号墳、行橋市馬場代 2 号墳、みやこ町長迫古墳、同花熊出土例などがある。そのなかでも、稲童 8 号墳は短甲、衝角付冑に小札肩甲などの付属具を伴っており、馬具も含めて他よりもすぐれた副葬品セットを保有している。この時期の、あるいはやや後出的であるが上位首長墳は苅田町番塚古墳で、小札甲や象嵌大刀を含む大量の武器・馬具を副葬している。

このような甲冑副葬古墳の増大現象が生じる背景には、5 世紀後葉の政治状況に関わっているとみて間違いないが、そのもっとも中心的な課題は朝鮮半島情勢であったろう。475 年の百済王都漢城の高句麗軍による陥落、あるいは同時期に緊迫化する新羅の拡大と加耶諸国の動揺などに関連すると考えられる。近年、5 世紀中葉以降の倭系古墳と呼ばれる九州北部地域と関係をもつ古墳が朝鮮半島で相次いで確認されており、また良く知られる朝鮮半島西南部地域での前方後円墳の築造動向とも関わっているものと考えられる。

番塚古墳の横穴式石室は、朝鮮半島の巨済島長木古墳や海南造山古墳とも高い共通性をもち、また陶質土器の出土など朝鮮半島とのつながりを表す要素が多くみられる。また、京都平野と同様の甲冑の多量副葬は宗像地域でもみられ、ともに朝鮮半島へ渡る倭人の活動拠点であった可能性が考えられる。

図 3 九州の中期甲冑出土古墳分布

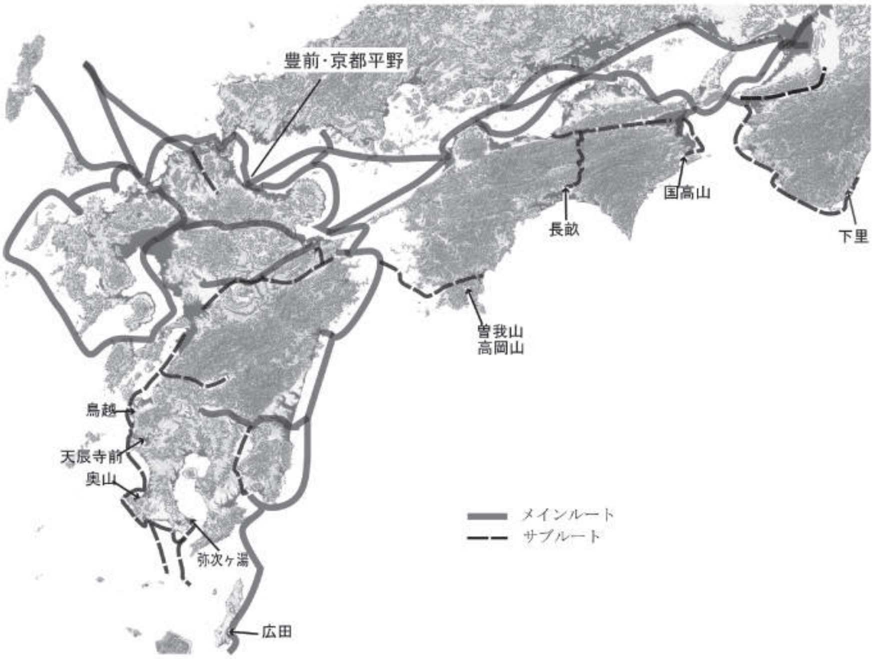

図 4　九州の古墳時代前・中期地域間交流ルート

3．稲童古墳群の特徴と豊前という場所

稲童古墳群の主要 3 古墳についてみてきた。稲童古墳群の第一の特徴としては、古墳時代前期からあるいはそれ以前の弥生時代から墓域として利用され古墳時代後期まで利用されていることである。このような長い存続期間をもつ墓域は古墳時代のなかでも珍しく、在地の集団、首長層の聖域であったのであろう。

そして次に、大型古墳は含んでおらず、中下位階層の首長墓群とみなされることと、豊富な副葬品である。ただ、ここで取り上げた 15 号墳・21 号墳・8 号墳はいずれも中位階層の首長墳のなかでは甲冑を中心とする優れた副葬品内容をもっており、在地首長としての地位とともに、外的にとくに近畿中央政権との関わりにおいて軍事など場面で評価されるような活動、職掌を担った人物の埋葬が考えられる。

はたして、その実態はどのようなものか。古墳時代は非常に広域交流の盛んな時代であるが、そのなかでも、もっとも人・モノ・情報の行き交ったのは、近畿中央部を軸として結びつく瀬戸内ルートのネットワークであるに違いない。その際に、地理的にみて豊前、京都平野は九州のなかでは瀬戸内の窓口の位置にある。この地を介して北へは宗像・福岡平野から、さらに朝鮮半島へつながり、またあるいは南の九州南部から琉球列島とも結ばれる。

稲童古墳群に甲冑を中心としてきわめて優れた文物が集中する背景には、地域のなかでの政治的力量だけではなく、瀬戸内交流の拠点・京都平野という地の利を得て、近畿中央政権の政策に同調しつつ、海を介した広い地域との交流に躍動し、名を馳せた人物のいたことが読み取れるであろう。稲童古墳群はそのような人びとの記念碑なのである。

稲童21号墳の騎馬武人

編集・発行　行橋市教育委員会

〒824-8601　福岡県行橋市中央一丁目１番１号
Tel:0930-25-1111

稲童浜より見た豊前海（1964年）